



# 士別ロータリークラブ会報

創立1960・3・24 RI第2500地区

vol. 26 No. 2125

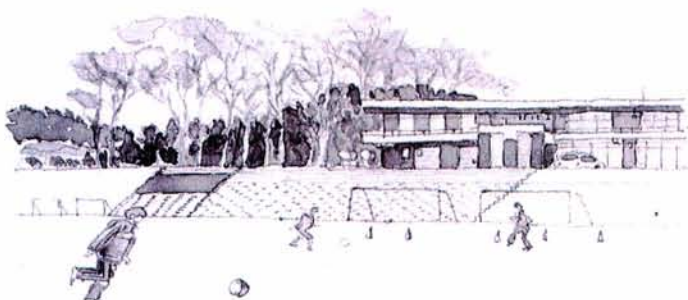
二世紀への出発 原点に戻ろうロータリー

## 超我の奉仕。

百年を礎に原点に戻ってもう一度ロータリーを語ろう

2005～2006年度 RI会長

カール・ヴィルヘルム・ステンハママー



百瀬達夫画

例会場／士別グランドホテル  
 例会日／毎週月曜日 12:10～13:10  
 事務所／士別グランドホテル  
 TEL (0165) 23-1234

会長／汐川 泰 晴  
 副会長／織戸 俊 二  
 幹事／川原 一 夫

士別河川防災ステーション (天塩川河川敷)

## 第2202回例会 2006年2月13日(月)

### 今日のプログラム ・普通例会

#### ■前回(2月6日)の記録■ ・普通例会 ・理事会

司 会 藤吉敏博会場監督

斉 唱 我等の生業

本日の出席 出席率76.92% 会員65人中 出席者50人

本日の欠席 泉谷 勇、加藤 博、北村浩史、国森和麿、柴田敏郎、田中 全、谷 温恵、寺下隆通、  
中川涼一、鍋島 秀、野 英俊、渡辺正一、菊地 博、坂野虎溪、渡辺寿男

メイクアップ

ビジター

ゲスト

ニコニコBOX 犬伏彰吾(全快祝い)、山本俊一、吉川紀雄、武田 修、若森 孝、渋谷知宏、川橋勝美、  
大塚勝人、黒田康敬(以上2月誕生祝い) 累計210,000円

### 例会予定

2月のロータリー月間「世界理解月間」・ロータリー創立記念		世界ローターアクト週間	
2月6日(月)	普通例会・理事会	3月6日(月)	普通例会・理事会
2月13日(月)	普通例会	3月13日(月)	普通例会
2月20日(月)	普通例会(2月23日ロータリー創立記念日)	3月20日(月)	普通例会
2月27日(月)	夜間例会	3月27日(月)	夜間例会(士別ロータリー創立記念日例会)



## ■ 会務報告

汐川泰晴会長

今年もいよいよ2月に入り節分、立春が過ぎ日の出の時刻も早くなって参りました。

暦の上では春間近といった所でございますが、その兆しはまだ一足遠くこれからも寒気による冷え込みなど一段と厳しくなってくると思います。

今道内で猛威をふるっている風邪やインフルエンザによる感染で体調を崩されている方が相次いでおりますので、お身体には十分に気を付けご活躍を頂きたいと存じます。

今月は世界理解月間になっております。1905年2月23日、ポールハリスが3人の友人とシカゴで初めて会合を開いたこの2月を特別月間として世界理解月間に定め毎年実施されております。

この月間中にRIは各クラブに対し世界平和に不可欠な国際理解と友好、親善を特に強調するプログラムを実施するように要請されているとの事でございます。

また2月23日はロータリーの創立記念日でもあり、この日から始まる1週間を「世界理解と平和の日」と定められ、ロータリーの奉仕活動を強調する事を1992年の規定審議会で決議されたそうでございます。

ロータリーの友2月号、RI会長メッセージの欄に国際奉仕を考えると題して、RIカール・ヴィルヘルム・ステンハマー会長が世界を旅して目にした各国のさまざまなロータリアンの活動が紹介されております。

先般1月30日、土別商工会議所の主催による新春講演会が開催され参加して参りました。

講師にスポーツジャーナリスト増田明美さんを迎えての選手時代の土別での合宿やハーフマラソンの思い出、また頂点を目指し過酷な試練を乗り越えてきた、スポーツを通じての様々な人生体験をユーモアを交え熱っぽく話されておりました。

当クラブの会員の皆様もそれぞれの立場で多数ご聴講されておりました。

## ■ 幹事報告

川原一夫幹事

1) 受信関係=ガバナー月信2月号、名寄RC、美深RCより会報と例会案内。

2) 「ロータリーの友」事務所より2006年～2007年度版「ロータリー手帳」購入の案内。5月下旬に出来上がる予定ですので、ご希望の方は私の方まで申し込み下さい。

3) 下期の会費の納入のお願いを申し上げます。納期限今月末までとなっております。

4) 前回もお願いいたしましたロータリー年次寄付、お一人11,800円となっております。次回の例会までですので、ご協力くださいますよう宜しくお願い致します。

## ■ 2月の誕生祝い



武田 修、黒田康敬、渋谷知宏、川橋勝美、吉川紀雄  
若森 孝、山本俊一、大塚勝人の各会員

## ■ 会員卓話「土別雪まつりについて」

千葉道夫会員（土別観光協会会長）

今回、51回目ということで会員の皆様にもお楽しみ抽選券をお買い求めいただき、ありがとうございました。多くの皆様の努力によりまして、歴史を積み重ねてまいりました。しかし毎年参加人数が少なく、主催する立場としては、動員数が一番気になるところです。

実行委員会としては楽しい2日間、多くの市民とともに参加することを大きな目標に掲げているわけですが、51回という歴史を踏まえてもなかなか思うようにいってないというのが現状です。

歴史を振り返りますと、いろいろあったのですが、特に会場がなぜこのように変わるのかというご不満も多いと思います。ですがこれも時代の変化かなと思います。

当初は大通り、それほど交通量が多くない時、商店街の前に山のように積み上げた雪を商店街の方々がスコップで形作って、市民に雪像の造形を楽しんでもらったということもありました。

また今の体育館周辺にスケートリンクができてから、その会場を使つてのスケート大会なども含めた市民参加型のイベントも少しずつ加わってきたという傾向もありました。

しかし各地でだんだん規模の大きな雪まつりが行われ、市民がそちらに出向いていくというような状況の中で、見て楽しむ雪祭りから参加型の雪祭りにしようということで、中央の会場から郊外に移し、水郷公園、学田の丘など広い場所で、雪のスポーツを楽しみながら、何年か続けました。ですが少しでもイベントを通して街に市民を戻してほしいという話もあり、中心街に戻したという経緯もあります。

今はあすなろ公園という狭い会場で行っています。雪はね選手権も定着してきました。話題もあり、道内から高い評価を受けています。

暗中模索でこれからどのようにしていくのか、みなさんの意見を集約しながら進めていきたいと思っております。